

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2021年3月1日 210号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護



レダ公館（水一荘）より東方を望む。虹と濃い緑は雨季の特徴。右の建物は警察署兼駐在員宿舎。2021年1月7日16時59分

太陽と雨と大地が育む万物の生命

レダは雨季真っ最中。初めにその恩恵を受けるのが植物です。すさまじい勢いで成長する草木を見ると、野生の生命力には驚くばかりです。次いで小さな虫たち、特に蚊が大発生します。そして小虫を食べる肉食性の虫たち。さらにそれらを捕食する鳥、魚、獣・・・

微生物から大型鳥獣、猛禽類に至るまで、食物連鎖に連なる生きものすべてが、直接・間接に雨の恩恵に与り、成長と繁殖を最大限に謳歌する季節です。もちろん、私たち人間も、農業、水産、畜産などを通し、大自然の恵みを享受します。その大きさは計り知れません。

都会からの訪問者は、蚊の多さにびっくりするかも知れません。衣服の上からも刺してくる蚊に閉口するでしょう。蚊に刺された後の痒みや腫れには個人差があり、一般にはその経験の少ない人ほど大きいとされます。長年にわたって現地に住んでいるスタッフの中には、涼しい顔も。とは言え、蚊対策をしない人はいません。

パンタナールは「カナン（蚊難の地）」とは、日本語話者の間でよく言われます。ただし、マラリアを媒介する蚊は棲んでいます。もしマラリア蚊がいたら、アマゾンの感染地域のように「緑の地獄」になっているでしょう。やはりレダは、神が約束した福地なのです。

ところで、雨季といえども、のべつ幕なしに雨が降り続けるわけではありません。数時間の降雨の後にはまぶしい太陽が顔を見せます。陽光を浴び、あらゆる生命体が一層育まれていきます。天候にメリハリがある、この点で、日本の梅雨時とは趣が異なります。

まとまった雨が降ると、地面がぬかるみます。すると車両が使えなくなり、人の移動や物の運搬が困難になります。もしぬかるんだ道路や滑走路を車が無理に通ると、深い轍ができて地面が荒れ、後に乾いても使用できなくなるのです。緊急時に車両や飛行機の往来ができないと、命の問題にもなりかねません。道を守るためには、時間をかけても歩いて移動することになります。

陸路と空路が天候の影響を受けやすいのに比べ、最も安定した交通手段が船です。レダプロジェクトも船舶を持てるよう、現在アメリカの会員・支援者たちを中心に、準備が進められています。感謝とエールを送りましょう。



毎日曜の晩は岩澤所長の講義。1月10日



レダ基地スナップ

撮影：伊達勝見

トラクターで公館前の草刈り。1月13日



エメルヒルドさんの草刈り。1月12日



援助組織職員が来訪。1月20日



朝礼で体温測定。1月19日



パブロさんの誕生祝い。1月16日



成長したバナナ。1月11日



レダに貢献された故高橋氏を記念する植樹。1月28日



レダに貢献された故今井氏を記念する植樹。1月28日



第5の池からパクー750匹を取り出して移動。1月27日



中井氏がイスマエルさん(右)と共に到着。2月3日



報告する佐野氏。2月1日



小橋氏がパクーの卵12kgを加工。1月27日



書棚を作る水落氏。2月2日



蜂蜜5リットルを収穫。2月1日



従業員宿舍の排水溝を整備。右は上山氏。1月29日

●**図師義継**（ずしよしつぐ）氏が1月9日の定例集会で報告した内容を、先号に引き続き、掲載します。

「タロイモ、早く育て!!」毎日声掛け

●**タロイモ栽培を引き継ぐ**…昨年1月20日、それまで労務管理とタロイモ栽培を担当をされていた上山氏が日本に一時帰国することになり、私がタロイモ栽培の業務を引き継ぐことになりました。引き継ぎにあたり、従来の農業日誌だけでは資料として不足に思ったので、インターネットでタロイモに関する情報をできるだけ集めました。レダ特有の環境条件や課題などは、実地作業で学び、研究しました。

●**パクーの飼料**…タロイモは、私たちの食料としても一部を利用しますが、大部分は養殖パクーの飼料になります。（タロイモのイモは、サトイモと同様、茎の基部が肥大したもの）収穫は、人がタロイモ田に入って、茎と根とを持ってしつかりと引き抜きます。大きな株を引くには、大きな力が必要です。これをトラックで川岸に運び、水で洗って泥を落とし、マチエーテ（山刀）で適当なサイズに切り、パクーに与えます。毎日2時間余り、この作業をしました。

●**除草**…タロイモ栽培における最大の労働は除草です。他に、施肥や土壌改良の作業もあります。レダでは雑草の成長と繁殖が極めて旺盛なので、人が手を入れないと、すぐに作物が負けてしまいます。畑地の雑草は、水びたしにすると成長しにくいのですが、湿地帯であるパンタナールには、水に強い雑草が多くあります。



第2農場のタロイモ田作業。2020年11月10日

タロイモ田は滑走路沿いの細長い水田と、一枚約1haの大きな水田とがあり、合計約6haのタロイモ田があります。大きな水田は深さもかなりあり、現地作業員もあまり入りたがりません。そこで私が先頭を切って入って行くのですが、それでも入ることをためらう人はいました。



第1農場のタロイモ田で作業する図師氏（左から2人目）。2020年6月23日

●**早く育て!**…タロイモの生育状況は、昼も夜も、休みの日も気になります。こうして日本に来ていて、レダのタロイモがどうなっているか、気になってしかたがありません。レダでは、毎日タロイモに声を掛けていました。「タロイモ、早く育て!」と。

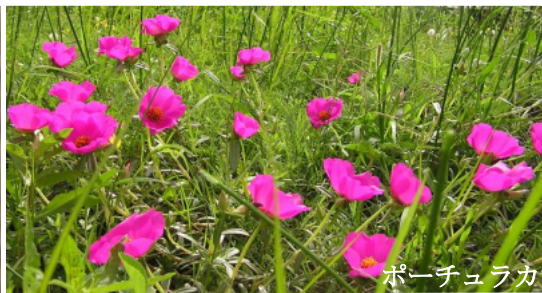
●**連作障害**…育ちの悪いイモや、腐ったイモを目にすることがあります。原因として連作障害を考えました。ちなみにタロイモの一種であるサトイモは、連作障害を受けやすいと言われます。

レダでの連作障害対策としては、タロイモ田を輪番で使用すること、水田に客土をすることなどが考えられます。しかし良い土を、しかも大量に、どこから持つて来れるでしょうか?これは課題です。

●**鳥害・虫害**…栽培には、良い苗と良い土が必要です。植え付け後、厳しい環境で淘汰され、消えていく苗もあります。レダは野鳥が多いのですが、その



タマスダレ



ラカ

中には株を倒してイモを食べる鳥もいるのです。害虫が発生して、じょうろでニーム抽出液を散布したこともあります。また蛇対策として長靴を履くのですが、足が水虫に罹ります。幸い、水虫にはレダ産のニームクリームがとてもよく効きました。

●**花咲く草木**…レダは植物の宝庫でもあります。パラボーチョは、ビヤ樽のように太った幹に、びっしりと大きなトゲをまとった木。ゴールデンシャワーと呼ばれるアカシアの一種は、黄色の花をそれこそシャワーのように咲かせます。

日系人が「パラグアイ桜」と呼ぶのは、ピンク花のラパーチョ。でも桜と異なり、ラパーチョは、花びらが一枚ずつひらひらとは散りません。私は日本の桜の方が好きです。

ドラゴンフルーツと呼ばれる実の成るサボテンは、純白の大きく優美な花を咲かせます。他にもサンカクサボテン、ヒモサボテン、ウチワサボテンなど、それぞれにきれいな花が咲きます。草ではマツバボタンに似た、野生のポーチュラカ。紅色の小さな花が可愛らしいです。雨後の野原に一斉に咲き揃う白い花は、タマスダレ。南米が原産地です。

●**帰国**…11月29日、陸路で首都アスンシオンに向かう途中、メノール教徒の町を訪れました。彼らは信仰に基づいた理想郷を目指して、乾いた内陸地域に豊かで平和な町を建設したのです。現在は若い世代の教育が課題になっているということです。またパラグアイ南部の世界遺産トリニダ遺跡（先住民のキリスト教コミュニティの跡）を見学して、もしイエズス会の宣教師たちが残り続けていたならば、北米よりも南米の方が発展したかもしれないと思いました。

皆様からの篤いご支援に改めて感謝いたします。（拍手）

第22回ワンディセミナーのご案内

大変お待たせしました。本年最初のパンタナール・ワンディセミナー（一日研修会）を、左記の要領で開催します。なお、新型コロナウイルスの感染状況により、日時ほかの予定を変更する場合があります。

日時…5月15日（土）10時受付、5時終了予定

会場…国立オリンピック記念青少年総合センター、センター棟内（小田急線参宮橋駅徒歩7分、または渋谷駅西口40番乗場よりバス、代々木五丁目下車）

参加費…2000円（昼食を含む）当日受付にて

参加を希望される方は、ファックスまたはメールで、下記の当法人事務局宛てお申し込みください。（応募用紙の請求も同事務局へ）

共催…一般社団法人 南北米福地開発協会、NPO法人 地球の緑を守る会

プログラム（予定）

●「レバレンド・ムーンの思想とレダ開発」講師…柴沼邦彦「当法人理事」



柴沼邦彦講師

●「レダと日本における植樹活動」講師…高津啓洋「NPO法人地球の緑を守る会代表理事」



高津啓洋講師

●「レダプロジェクトの展望」中田欣宏「当法人代表理事」



中田欣宏代表理事

●「レバポート…島田賢二青年局長帰国したボランティア・基地スタッフによる体験報告」

●分科会…各講師を囲んで、質疑応答、感想発表ほか、親しく懇談する時間があります。



センター棟

本の紹介

「春の数え方」春はいつから始まるのでしょうか？ 皆さんならどう答えますか？

いろいろな答えがありそうですね。それでは、同じ質問を植物や動物たちにたずねたら、どう答えると思いますか？ 彼らの身になって考えてみると、次から次へと疑問が湧いてくるかもしれません。もしそうなら、この本を読んでみることをお勧めします。日高敏隆（ひ）



生と言う動物行動学者が、やさしい言葉でわかりやすく書いた本です。（平成17年発行、新潮文庫）この本の裏表紙には、こう書かれています。「春が来れば花が咲き、虫が集う―当たり前？でもどうやって彼らは春を知るのでしょうか？鳥も植物も虫も、生き物たちは皆それぞれの方法で三寒四温を計算し、季節を計っています。そして植物は毎年ほぼ同じ高さに花をつけ、虫は時期を合わせて目を覚まし、それを見つめます。自然界の不思議には驚くばかりです。日本を代表する動物行動学者による、発見に充ちたエッセイ集。」（本の紹介はここまで）

初蝶 『初蝶来 何色と問ふ 黄と答ふ（虚子）』初蝶とは、その年初めて見る蝶のこと。多くの場合、初蝶は前年の秋に羽化した蝶が、冬ごもりを経て、春に目を覚まし、飛び始めたものです。ちなみに、モンシロチョウは蛹で越冬します。今年のあなたの初蝶は何色でしょうか？

成虫で越冬する蝶 画像:Wikipedia

一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821

FAX: 044-829-2820

支援金振込口座: ゆうちょ銀行

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

Eメール: office@asd-nsa.com

ホームページ: https://asd-nsa.com

Facebook: https://www.facebook

.com/ledaproject.jp/

会員の皆様へ

会員の皆様には、周囲の方々にレダ・プロジェクトを紹介し、入会の案内をしていただければ幸いです。紹介用のパンフレット（印刷済み）、および入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。



入会申し込みは、左のQRコードから、グーグルフォームでも行えます。

パソコンでは、下記のURLにアクセスしてください。

<https://asd-nsa.com/nk/>

レダ・プロジェクト紹介用パンフレットPDF版



紹介用パンフレットは、ネットでも入手いただけます。

スマホなどの端末で、または印刷してクリアファイルに入れてどうぞ。



<https://asd-nsa.com/sk/>